



JAC GUNMA

公益社団法人

# 日本山岳会

群馬支部報

第3号

平成28年  
1月20日

## マナスル初登頂60年

# これからの登山考える好機

公益社団法人日本山岳会群馬支部 支部長 田中 壯侖

明けましておめでとうございます。

昨年10月、群馬支部発足後初めての支部山行に参加しました。毎日目にしている赤城山ですが、私にとって黒檜山から駒ヶ岳を歩くのは58年ぶりで、登山道がよく整備されていることや元気な山ガールに驚くとともに、新たな登山スタイルや自分の体力の衰えを再認識しました。山頂付近はすでに落葉しており、冷たい北風と風花が舞う天気でしたが、群馬の山々や遠く富士山を眺めながら新入会員を交え楽しい一日を過ごしました。

登山スタイルは時代と共に変わっていますが、榎有恒さんは以前“三つの登山魂”を挙げておられます。一つは、…未踏の地に達する可能性、ただ地球上の最高点という単純な事実…このことが、われわれを駆り立てる。問題は一切のくだらぬ比較を超越したもので、われわれにとっても身近な問題であった、という英国エベレスト登山隊長ジョン・ハントの手記。

二つ目は、ローマ教皇ピオ11世の言葉で、私が高い山頂に立つたびごとに、それは自分が困難辛苦を克服したという喜びもあるが、それよりも高きに登ることによって、一歩前進し神に近づくことを得たという感に浸り、まったく世俗的な一切の幸、不幸

から超越して精神の深みより湧き起るところの生そのものへの歓びを覚えるのである。

三つ目は、自分は自然と別個の存在では無く、その中に一つの生きることの幸せを覚えるものが私たちにある。あまりに情緒的、直感的、非合理的といわれるかもしれないが、私たちの精神的風土というべきもののうちに育まれたこのような雰囲気、登山にも現れるのではないだろうか、と言う榎さんの言葉です。

現在、登山は多様化し、登山の楽しみ方や山とのかかわり方も様々です。しかし、自分の足で歩くこと、すべて自己責任なこと、自然を守る大切さ、そして大自然に対し謙虚さが求められることは変わりないと思います。

先日、古い写真集を見ていたら、カトマンズのホテルで撮った一枚の写真が目に残りました。1972年春、マナスルを目指すオーストリア隊のメンバーが訪ねてくれた時のもので、2カ月後、ラインホルト・メスナーが南西面から無酸素単独登頂（第3登）しました。今年は、マナスル初登頂後60年になります。一般登山愛好者と共に、記録映画“マナスルに立つ”を鑑賞しながら、これからの私たちの登山を考えるのも良いのではないのでしょうか。

### リレーエッセイ③「東北の山を楽しむ」

昨年10月1日、高崎駅から大宮経由で盛岡駅へ。安比高原にある大学時代の友人の別荘へ向かう。10日まで滞在した。その間、5日には早池峰山へ登る。小田越から、2時間10分で山頂へ着く。寒くて避難小屋で昼食を取り早々に下山。6日は岩木山。登山リフトを降りてから山頂まで30分。眺めはよかったが、やはり寒くてすぐに下山し、嶽温泉の山のホテ

ルに泊まる。7日は秋田の森吉山へ。太平湖に行き、小又狭の三階の滝まで歩く。翌8日に森吉山へ登山。阿仁のゴンドラから約50分で山頂へ着いた。

一昨年も9月の初め、10日間滞在し岩手山、八幡平、八甲田山、秋田駒ヶ岳に登り、楽しい時を過ごした。山登りは40年ご無沙汰していたが、ここ数年少しずつ登るようになり、70歳の今また登山を楽しんでいる。  
(西田 哲彌)

## マナスル記念イベント、支部山行定着も

2016年度  
支部事業概要

2016年度支部事業については昨年11月の第13回例会で、その基本方針と概要を決め、1月に2016年度支部事業計画書・支部予算書としてまとめ、日本山岳会本部に提出した。

公益事業では岳連事業への協力という形で行われてきた「チャレンジキッズ」と「上州武尊スーパービューウルトラトレイル」に、14年度に初めて後援した「ぐんま山フェスタ」(実行委員会主催、上毛新聞社共催)、そして谷川岳で始まった「山の日制定記念プロジェクト」(実行委員会主催)を加えた4事業への参画を継続し、その充実を図る。さらに新規事業として、マナスル初登頂60年記念イベント、家族登山、自然保護活動などを新たに企画、実施する方向性が確認された。

一方、共益事業では現行の隔月の例会、そのうち年1回の総会の開催と、年2回の支部報発行に加え、年4回の支部山行を行うことを決めた。それぞれの詳細は下記の通り。

### 【公益事業】「マナスル」と家族登山、自然保護も

山フェスタは2015年度に後援として初参画し、8月7～9日の3日間にわたり、ブースでの相談コーナーと並行しての写真展、トークショーなどを実施した。2016年度の詳細は未定だが、日本山岳会群馬支部としても、より充実した内容を目指していきたい。

谷川岳周辺で展開される山の日制定記念プロジェクトについても来年度の詳細は未定だが、2015年度同様、谷川山系を舞台とする山行をメインとするものになると思われる。15年度は実行委員会に参加、ガイドに一人を派遣してきたが、今年は「山の日」スタートの年であり、イベントの周知とともに参加者も増えるものと思われる。より一層の力を注いでいきたい。

上州武尊ウルトラトレイルについては引き続き岳連事業に協力する形で参画する。15年度は、八木原日山協会長、佐藤岳連理事長、後に会員となった武尾、宮川二氏が運営に携わった。

チャレンジキッズも岳連事業に協力していく。15年度実施済みの3回中、一ノ倉沢を除く2回に支部から派遣し、3月のスノーシューツアーも派遣を予

定している。

新たに取り組む事業としてはマナスル初登頂60年記念イベントをメインに、家族登山、自然保護などを決めた。マナスル初登頂60年記念イベントはJACによる初登頂時の記録映画の上映と、マナスル経験豊富な田中支部長の講演などを構想している。山フェスタの枠組みの中で行うのが周知効果も見込めるが、独自開催の線も含め、時期や場所など総合的に考えていかなければならない。

12月の晩餐会で谷垣禎一氏の来賓あいさつでも触れられた家族登山は、日本山岳会が取り組む目玉事業の一つでもある。行政やマスコミとの共催などさまざまな方向を探りながら実現に向け努力していきたい。

自然保護も重要な課題であり、岳連自然保護委員会や県内の自然保護団体との情報交換などを通し、事業としての可能性を着実に一歩一歩探っていく。

### 【共益事業】年4回の支部山行 総会は5月

支部山行は、第1回を昨年10月に赤城黒檜山で実施し、年度内に今年度2回目の山行を考えている。これらの予定も含めた2回の山行を土台に、来年度以降、当面年4回程度の実施から本格スタートする。そのための山行委員会も設置された。

なお、来年度後半(2017年2月ころ)には千葉、茨城、栃木、群馬4支部の支部懇談会が群馬支部の主管で行われる。この支部懇談会も視野に山行委員会の活動を支部全体で支えていきたい。

支部山行以外では従来通りの共益事業を計画。年2回の支部報発行と、支部運営の土台である総会・例会についても従来通り、通常総会を年1回(5月第3水曜日)、隔月(奇数月第3水曜日)の例会開催を予定している。

### 【そのほか】グレーディングへの参画

登山コースのグレーディングについてはすでに長野、山梨、静岡、新潟の4県でスタートしている。本県でも来年度の調査実施が検討されている段階である。このグレーディングの実地調査と合わせ、登山コースガイドブックの新版構想もあり、これらの動きに支部としてどのように対応していくか、岳連とも連携を密に、状況を見極めながら進めていく。

## 山フェスタ2015

### 写真展示やパネルトークで 山の魅力伝える

山フェスタ2015（実行委員会主催、上毛新聞社共催）が、昨年8月7日から9日まで県庁1階県民ホールで開かれた。群馬支部も初参加し、多くの会員が設営や運営に携わった。

山フェスタは2014年に始まったイベントで、県内市町村による登山コースの紹介ブースを中心に、山に関係する団体や企業などが出展した。3日間の来場者はおおよそ3000人だった。

支部では、相談コーナーで家族登山の資料配布や来場者の相談に対応した。さらに、加藤会員が県の広報誌「グラフぐんま」（上毛新聞社刊）に連載した山岳写真をパネル展示と大型スクリーンで上映するとともに、9日にはスクリーン上の山々を背景にパネルディスカッション「群馬の山を語る」で山の魅力を語り合った。壇上には田中支部長、平野副支



部長、大竹、加藤会員に岳連の佐藤理事長が加わり、根井事務局長が司会を務めた。

## 平成27年度 支部合同会議

平成27年度の日本山岳会支部合同会議が、昨年9月26、27日の二日間にわたり東京千代田区の主婦会館プラザエフで開かれ、全国各支部から支部長、事務局長らが集まった。群馬支部からは田中支部長、根井事務局長が出席した。

会長あいさつに続いて会務報告があり、会員動向や決算概要が示され、再生委員会の今後の進め方などが説明された。

また協議・意見交換では、「山の日」への取り組み状況が示されるとともに、支部事業推進のためのブロック割導入も提起された。また財政改善について出版費用の削減や助成金見直しの必要性などについて説明があった。詳細は「山」10月号参照。



## JAC創立110周年 記念式典・祝賀晩餐会 支部から8人が参加

日本山岳会の創立110周年記念式典・祝賀晩餐会が12月5日、東京新宿の京王プラザホテルで開かれた。晩餐会は毎年の恒例行事だが、今回は110周年記念式典があわせて開かれた。

記念式典には皇太子殿下もご臨席され、全国山の日協議会の谷垣禎一会長、支部のメンバーでもある日本山岳協会の八木原罔明会長ら多くの来賓が招かれた。参加者は584人。群馬支部からは田

中支部長はじめ8人が参加した。

式典は午後5時に始まり、会長あいさつ、物故者への黙とうに続き、

谷垣、八木原両来賓の祝辞の後、秩父宮記念山岳賞の授与、110周年記念事業報告などが行われた。

式典終了後、午後6時15分から祝賀晩餐会がスタート。新入会員紹介では群馬支部の田中規王会員も登壇した。鏡開き後は同じテーブルとなった他支部会員との懇談や岳友との旧交を温める光景が随所で見られた。



## 山の日制定イベント 「清水峠弾丸ツアー」に参加して

鈴木 良徳

「山に親しむ機会を得て、山の恵みに感謝する」をテーマに、谷川岳「山の日」制定プロジェクト実行委員会が主催するイベントの中の一つ「清水峠弾丸コースツアー」にスタッフの一員として参加しました。

8月8日午前5時からのスタッフミーティングの後、出発式でみなかみ町の岸町長、実行委員会の八木原副会長の激励を受け、5時30分スタッフ5人、一般参加者12人で出発。

コースは国道291号として群馬から新潟を結ぶもので、湯檜曾川に沿って谷川連峰の麓を巻いて白樺小屋を通り清水峠を越え、新潟に入り清水集落へ向かう約10時間の歩程です。この道は1885年に国道として開通したものの雪崩などにより機能を停止した道です。何十年も放置された荒地や多数の沢越え、また7月20日の大雨災害により一部のコース変更を余儀なくされました。事前に実行委員会、水上町関係者がヤブ刈り、ロープ掛けなど道なき道を整備してくれました。

当日は天候に恵まれた山行で、沢越えや崩落地ありの長距離の歩行にもかかわらず参加者はみな最後まで元気で、スタッフの一員として安堵しました。参加メンバーの皆さんも打ち解けた雰囲気やチームとしての一体感も出、自然に親しみながらの山行を十二分に果たせた事を喜ばしく思います。

ゴールの清水集落には実行委員会のスタッフが待機しており、塩沢石打ICから関越道に乗り帰路へ。登山口へは16時30分着。満足感漂う全参加者と握手を交わし解散しました。充実感を味わった一日でした。



清水峠より上越の山並みを望む

## 親子登山研修で黒斑山へ 小諸で指導者研修会

根井 康雄

JAC親子登山のサイトに原稿を寄せている関係もあり、谷内理事からのお誘いを受け、親子登山教室指導者研修会へ参加することにしました。実際の親子登山教室の運営スタッフとして参加しながら実践力を身に付けるもので、9月18、19の両日、長野県小諸市の安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターをベースに開かれました。

18日は新宿集合で、バス内でレクチャーも予定されていましたが、群馬からということで現地集合を了承してもらい、マイカーでお昼過ぎにセンターへ。

一般参加者は2家族、子ども3人におとな2人とちょっと寂しいものの、はるばる広島支部からも2人が研修参加するなどJAC会員の意気込みが感じられました。全員集合後、センターで大人は座学。子どもたちはセンター周辺の里山で自然体験。大蔵義福講師の明快なレクチャーはとても分かりやすく、勉強になりました。



出発前に地図の読み方を学習

二日目は実地登山で黒斑山へ。天気もまずまずで、北アルプスを振りかえりながら山頂を目指しました。3人を大勢の研修メンバーがサポートするという子どもたちにとっては豪華な山行。未就学児を含めトミーの頭まで全員が登頂できました。

家族登山の難しさは、基本的な登山技術に立ちかえること、そして子どもたちの体調と心理面をどうサポートするかにあるとあらためて感じました。

それにしても黒斑山の良さもあらためて感じた山行でした。カラマツの自然林を緩やかに登りたどり着く浅間外輪の尾根。そこからドーンと眼に飛び込んでくる浅間の巨大なドーム。振りかえると北アルプスの峰々が呼んでいるようでした。

# チャレンジキッズ マチガ沢大滝 半世紀前の初岩登りに思いを

北原 秀介

昨年9月27日に谷川岳マチガ沢出合から大滝間において、チャレンジキッズ沢登り体験会が群馬県山岳連盟主催で行われました。前橋近辺の小中学校運動会とバッティングしたようで、参加キッズ男子3人と保護者1人に対しリーダー5人という優雅な沢登りとなりました。



岩登りでは、群馬岳連のチーフリーダー金子さんと前橋山岳会所属の2人が軽やかにザイルをフィックスしたことで、子どもたちと一緒に超ベテランリーダー(?)も安全に楽しむことができました。日山協の八木原会長と私(北原)の2人は、前夜に谷川岳山岳資料館で限りなく楽しんだ日本酒による後遺症のため行動はぎこちなく、極力みなさんの障害にならないように、態度だけは偉そうに後塵を拝した次第です(それでも楽しかった)。



天候は曇り時々霧雨で絶好調とは言えませんでした。大滝付近からは頂上近傍の紅葉も遠望でき、まずまずの一日でした。大滝を登り終えた時点で雨が降り出し、八木原会長の判断で行動を中止して大滝をクライムダウンした後、厳剛新道へ草付きの斜面を登り返して下山しました。子どもたちはロッククライムを恐怖心なく軽快に登ったものの、



大滝をクライムダウンした後、厳剛新道へ草付きの斜面を登り返して下山しました。子どもたちはロッククライムを恐怖心なく軽快に登ったものの、

大滝のクライムダウンは恐ろしかったようで八木原会長からの指示にしたがったスタンスとホールドを必死の形相で探しているのが実に新鮮で、半世紀近く昔に経験した初めての岩登りを思い出した心地よい一日でした。

## 山行報告

### 槍穂高単独縦走

鈴木 良徳

今シーズン単独山行のメインとして計画したのは、上高地の山岳研究所(山研)をベースとした槍穂縦走。前日に山研に着き、同宿した在京山岳会メンバーに安全登山の激励を受け、心温まる酒宴となりました。



獅子鼻展望台にて  
北穂高岳を背に

1日目は槍ヶ岳へ。快晴の下、早朝の静かな上高地を出発し槍沢ロッジで休憩と朝食を摂り、その後徐々にペースアップし槍ヶ岳山頂往復。その夜の宿は混雑を避け殺生ヒュッテに泊まることに。一人で飲むビールもまた格別!

2日目は穂高岳山荘まで。今日も絶好の山日和。対向者も少なくこの上ない大展望を満喫しながら大キレットから飛騨泣きを経て北穂高小屋着。早めの昼食を摂り今宵の宿、穂高岳山荘へ。

最終日も快晴。昨年風雨の中、西穂から奥穂を縦走中、天狗岩付近で転んで緊張を強いられましたが、今回は十分に景色を楽しむ余裕も出てマイペースで歩くことができました。

西穂山頂で今回の旅の締めくくりとして槍穂の展望を頭に焼き付けました。中尾根から上高地に下り、山研管理人・元川さんと再会し旅の締めを実感しました。(7/31~8/2)

## おすすめの山書

### 「沈黙の山嶺 (いただき)

#### 第一次世界大戦とマロリーのエヴェレスト」 (上・下)

ウェイド・デイヴィス著 白水社

イギリス隊が初めてエベレストに近づいた1921年は登頂ルートはおろか、山の位置も形もわからなかった。一連の遠征は1924年6月8日、頂上まであと少しのところを登っているマロリーとアーヴィンが目撃されたのを最後に行方不明になった。その後、イギリスは33年まで遠征を行っていない。隊員は、第一次大戦の修羅場の生き残りだ。原書は10年かかり、訳書には2年かかった。最近読んだ山岳本の力作だった。

(小野里節司)



8月は53年ぶりに奥穂に行きました。現在、腰痛でダウン

**第1回支部山行****和気あいあいと赤城黒檜へ  
温泉と下山祝いも楽しむ**

日本山岳会群馬支部が結成され、早いもので2年半近く経つが、諸事情もあり支部としての山行は実施されなかった。

そんな折、根井事務局長から提案があり、9月の定例会で10月25日赤城の黒檜登山に登ることが決まった。

当日9時半頃、赤城ビジターセンター前にみなさんが揃い、自己紹介と簡単なミーティングをする。参加者は田中支部長、西田さん、北原さん、平野さん、入沢さん(長蔵小屋)、大竹さん、根井さん、田中(規)さん、それに中山の9名。大竹さんは急用で山行には参加出来ませんでした、わざわざビジターセンターまで断りに来られた。

柔軟体操をして9時43分出発する。大沼沿いに黒檜山登山口まで歩き、10時6分リーダー根井さんをトップに登りだす。

猫岩の展望台から大沼、小沼を見下ろし、途中3回の休憩を入れて、11時42分全員山頂に到着する。紅葉シーズンの日曜日とあって山頂はたくさんの人で大賑わいだった。



早めの昼食後、山頂北の展望台を往復。冬型の気圧配置で西の山々は雲に隠れていたが、まずまずの展望も得られた。

12時20分下山開始、花見ヶ原の分岐先から急な階段を下り、ゆったりしたオオダルミで休憩、駒ヶ岳を越えてビジターセンターに下山する。

紅葉はすでに中腹まで下り、時々風花の舞う冷たい風の日でしたが、皆さん、和気あいあいの楽しい登山だった。

その後、希望者が富士見温泉で汗を流す。さらに「登頂祝い」の一杯も企画されていたが、私は残念ながら参加出来なかった。(中山 達也)

**支部山行委員会を設置  
年4回定例化へ**

8月の山フェスタには多くの支部の仲間が集まった。その中で「今度は支部で山へ行きたいですね」という声誰からともなく上がった。そしてその月の下旬、八木原さんの日山協会長激励会が前橋で開かれたが、その席で、またその後の二次会でも「みんなで山へ行こう」という気持ちが広がってきたのを強く感じた。

9月の第12回例会で、「支部で山行しませんか」と提案したところ、満場の賛成をいただき、「年内に第1回を」ということになった。鈴木さんにチーフリーダーをお願いし、計画を練り、参加を募ったところ10人を超える希望があった。

山行地は赤城黒檜。10月25日と紅葉には少し遅いが、展望が期待できる日程。下山後は温泉と下山祝いもという欲張ったプランになった。

当日、チーフリーダーの鈴木さんは親戚のご

不幸で参加できなかったが、急用により駐車場で引き返された大竹さんを含め9人の参加となった。



山行の様子は中山さんの記事に詳しいので省略するが、第1回山行はこのような成功裏に終わった。



その後、11月の第13回例会で支部に山行委員会を置くことが決まり、田中規王、宮川、鈴木会の3会員に山行委員をお願いし、委員長に田中規王さんが就くことになった。

次回山行は2月から3月ころになると思われるが、次回も支部の仲間と楽しく山を歩きたいと思っている。さらに来年2月には関東地区の4支部合同懇談会が予定されている。支部の山行を土台に4支部にその輪を広げていければと思う。

(事務局長 根井 康雄)

## ◆特集◆ 例会ショートスピーチ

## 群馬県山岳連盟での自然保護活動

寺内 正明

昭和50年代頃から群馬県山岳連盟（岳連）の自然保護部で活動を始めました。その頃は「山のゴミ拾い屋」としか思われていなくて、人数も3、4人ほどでした。日山協自然保護委員会総会へ参加し、尾瀬でのゴミ拾い、持ち帰りの啓蒙活動などを始めました。

その後、自然保護も世間に広く認知され、岳連でも委員会になり12、3人での活動になりました。主なものは平標山から仙ノ倉山にかけてのパトロールで、ロープを張り、登山者への呼びかけを行いました。

山岳地の水場8か所水質調査では、三平峠、妙義山、一ノ倉沢、幽ノ沢、荒船山、朝日岳、平標山、西黒尾根の水を採取し、県衛生環境研究所での検査で衛生的でおいしいという結論が出ました。平成18年4月に県庁で発表しました。

また、赤城山麓の沢水、湧水、地下水の調査を平成15年に行いました。採水場所は山頂付近（鈴ヶ岳水場等）、山腹の湧水（木曾神社、黒保根村の清水、赤城神社等）、粕川、沼尾川、小黒川等の本流、山



「群馬の山の水場」水質調査  
袈裟丸山折場登山口での採水

麓の家の井戸水などでした。分析は群馬高専衛生工学研究所で実施しました。

平成19～21

年度には「群馬の山の水場」の水質調査を行いました。およそ30カ所（至仏山、谷川岳各所、稲含山、裏妙義、袈裟丸山、武尊山、大峰山、赤久縄山、尾瀬、鳴神山、角間山、四阿山、赤城山、草津白根山、子持山、根本山など）で採水し、県衛研へ持ち込み検査しました。その結果は県環境保全課でまとめ、群馬県のホームページ上に発表するとともに、水質調査報告書を作成印刷し県内行政、山岳会、山関係出版社、マスコミなどに配布しました。

(2015年7月15日)

## 忘れられない台湾玉山

田中 規王

わたしが登山を始めたのは、地味ながら黙々と山に登っていた父親の影響でした。子どもの頃は当たり前のように、ほぼ毎年父に連れられ谷川や尾瀬に行っていました。父は写真が好きで、四季折々の山の写真を撮っていました。父がスナップ写真をたくさん残してくれたので、いつでも懐かしく思い出すことができます。あらためて、感謝したいと思います。

わたしは平成16年度から19年度までの4年間、台湾の台北日本人学校に勤務しました。仕事は忙しく大変でしたが、毎日が新鮮で楽しく、4年間一度も帰国することはありませんでした。

台湾に行く前は、台湾と言えば「親日」、「食事がおいしい」くらいしか知りませんでした。暮らし始めて台湾について色々知っていく中で、台湾最高峰「玉山」に興味を持ちました。台湾は過去に50年間、日本の統治下にありました。当時、富士山より高い新しい山ということで、明治天皇が「新高山」と名付けられたとのことでした。せっかくだから登りたい。そんな思いが強くなりました。

2年目の夏に玉山登山計画を立て、3年目の早いうちから準備を始めました。玉山は、登山者数が制限されていて山岳団体に申請して抽選とのことでした。抽選も無事通り準備も終わり、いよいよ出発。ところが出発の2日前、台風が接近していて登山中止命令が出るかもしれないという連絡が来ました。前日までじっと見守りましたが…残念なことに中止となってしまいました。

そして4年目。今年こそはと、再チャレンジ。抽選も無事通り、2度目の挑戦でやっと登山決行。日本人会の山好きなメンバ



ーを募り出発しました。当日一人、日本からの参加者がいました。その方は、新潟で医師をされていて南極観測隊に2回参加した経験のある方でした。この方が持参されたワインを山小屋「排雲山荘」で満天の星を見ながらおいしくいただいたことをよく覚えています。バラエティーに富んだ個性豊かな方々と一緒に、一生忘れることのできない楽しい玉山登山となりました。

(2015年9月16日)

## 事務局だより

## 【活動・事業・関連イベント】

〈2015年7月〉

## ■自然保護全国集会（7／11・12 東京）

参加：北原（自然保護委員）

## ■支部7月例会（7／15 前橋・県社会福祉総合センター）

- ・支部長報告
- ・上州武尊山スカイビューウルトラトレイル（7／18～）について
- ・ぐんま山フェスタ（8／7～）・山の日制定記念プロジェクト（8／8～）の事前準備
- ・チャレンジキッズ 報告（6月・西黒尾根）と今後の予定について
- ・自然保護全国集会報告（7／11・12 東京）
- ・ショートスピーチ（寺内） 関連記事7面
- ・諸報告

## ■上州武尊山スカイビューウルトラトレイル（7／18～20 上州武尊周辺）

参加：八木原・佐藤・武尾・宮川

〈8月〉

## ■ぐんま山フェスタ（8／7～9 前橋・群馬県庁）

写真展示（パネルおよび大型スクリーン）・ブース出展・パネルディスカッション  
 参加：田中壯・平野・大竹・加藤・北原・田中規・寺内・荒木・根井 関連記事4面

## ■「山の日」制定記念プロジェクト（8／8・9 谷川岳周辺）

参加：八木原・鈴木・（根井） 関連記事5面

## ■八木原啓明日本山岳協会会長を激励する会（8／22 前橋）

参加：田中壯・大竹・小野里・金井・河合・北原・鈴木・田中規・寺内・橋本・平野・根井

## ■チャレンジキッズ（8／23 谷川岳ノ倉沢）

〈9月〉

## ■支部9月例会（9／16 高崎・城址公民館）

- ・支部長報告
- ・ぐんま山フェスタ・山の日制定記念プロジェクト・上州武尊山ウルトラトレイルの報告
- ・第1回支部山行、赤城黒檜を決定
- ・ショートスピーチ（田中規） 関連記事7面
- ・諸報告

## ■親子登山教室指導者研修会（9／19・20 小諸・黒斑山）

参加：根井 関連記事4面

## ■支部合同会議（9／26・27 東京）

参加：田中壯・根井 関連記事3面

## ■チャレンジキッズ（9／27 谷川マチガ沢）

参加：八木原・北原 関連記事5面

〈10月〉

## ■第1回支部山行 赤城黒檜山（10／25）

参加：田中壯・平野・西田・中山・大竹・北原・田中規・根井・入沢（長蔵小屋） 関連記事6面

〈11月〉

## ■支部11月例会

- ・支部長報告
- ・新入会員紹介
- ・来年度支部事業について協議 関連記事2面
- ・支部山行報告と山行委員会の設置を協議、決定
- ・諸報告

〈12月〉

## ■支部長会議（12／5 東京）

参加：田中壯

## ■日本山岳会創立110周年記念式典・祝賀晩餐会（12／5 東京新宿）

参加：田中壯・平野・斎藤晋・橋本・大竹・寺内・田中規・根井

来賓：八木原（日山協会長として） 関連記事3面

【今後の予定（1月21日以降）】※場所等変更になる場合あり

〈2016年1月〉

## ■第14回例会・新年会（1／20 前橋・うたや）

〈2月〉

## ■関東四支部合同懇談会（2／6・7 茨城大洗）

〈3月〉

## ■第15回例会（3／16 高崎・城址公民館）

## ■チャレンジキッズ（3／27 谷川岳周辺）

〈4月〉

## ■第32回全国支部懇談会（4／9・10 新潟岩室温泉・弥彦山）

〈5月〉

## ■平成28年度総会（5／18 前橋・県社会福祉総合センター）

## 【新入会員】

齊藤 裕徳（前橋市） 武尾 誠（前橋市）

宮川 勉（玉村町） 佐藤 光由（前橋市）

## 【退会】

神部 隆彰（富岡市）

## 【寄稿のお願い】

山行報告・評論・随筆など会員のみなさまからの原稿をお待ちしています。原稿送付先は下記のとおりです。

根井 康雄（日本山岳会群馬支部事務局長）

〒371-0051 前橋市上細井町1200-7

TEL・FAX 027-237-0026

mail: nei@k1.wind.ne.jp

※日本山岳会各支部、各種山岳団体で支部報、会報等お送りいただく場合もこちらへお願いします。

日本山岳会群馬支部報 第3号 2016年1月20日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

Tel 027-323-6713

〒370-0844 高崎市和田多中町11-31(田中方)

発行者：田中 壯 編集者：根井 康雄

印刷：上武印刷株式会社